

～浜松市サービス協便り～

◆浜松市介護サービス事業者連絡協議会部会別研修会の報告◆

入居系サービス部会

平成30年10月12日入居系サービス部会研修会が浜松市可美公園総合センターにて開催されました。今回の研修会は、「認知症」をテーマにした講義とグループワークです。前半は「初心にかえって楽しく認知症の人を学ぼう」という演題で、浜松医療福祉専門学校学科長の西藤宏之氏にご講演いただきました。



西藤氏は、20歳から25歳まで介護現場で活躍されていたそうで、その時の体験談を含めながら認知症の人の特徴と接し方について教えていただきました。

1. 「9の法則」と「1の原則」

認知症の症状なのか、物忘れ症状なのか、その見分け方について、「9の法則」と「1の原則」に基づき教えていただきました。

～「9の法則」と「1の原則」～

① 記憶障害の法則

認知症の人にとって記憶にないことは事実ではない。

- ・思い出す力の低下
- ・丸ごと忘れる
- ・記憶が新しいことから忘れる

(例) 今日食べた朝食のメニューを忘れる →【物忘れ】

朝食を食べたことすら忘れる →【認知症】

② 出現強度の法則

身近な人ほど症状が強く出る。

→信頼関係が築けている証拠◎

③ 自己有利の法則

自分にとって不利なことは認めない。

→認知症の人の捉え方 真顔＝睨んでいる

常に笑顔で接すること◎

④ まだら症状の法則

ときどきしっかりする。

症状はなくすることはできないが遅らせることはできる。

⑤ 感情残像の法則

[褒める・感謝する・同情する・共感・謝る]をされて

嫌な気持ちになる人はいない！

感情を利用し、利用者さんの脳の住人に！

⑥ こだわりの法則

- ・そのまましておく
- ・第三者を使う
- ・別のことに関心を向ける
- ・地域の理解と協力
- ・一手だけ先手を打つ
- ・過去を理解する
- ・長期間は続かないと割り切る

⑦ 作用、反作用の法則

強く当たれば強く返ってくる。

⑧ 症状の了解可能性に関する法則

その人の立場になると分かる

⑨ 衰弱の進行に関する法則

老化スピードが認知症でない人と比べて遅い

① 介護に関する原則

認知症の世界を大切にする

2. グループワーク

研修参加者の皆さんには、事前に困難事例を募集しました。集まった9つの事例について、西藤氏を交えて共有し話し合いました。ひとつひとつの事例について質問やアドバイス等を言い合いました。なかには、『帰宅願望が強かった利用者様の帰宅願望が無くなり、今では施設で楽しそうに過ごしている』という成功事例を聞くことができました。そして「うちの施設も取り入れたい」や「やってみようかな」などの声が飛び交う場面も見受けられました。時間内に9つ全ての困難事例について話し合うことができないうらい、内容の濃い検討会になりました。

3. 講師から

介護職員の方々は、常日ごろ頭をフル回転させて利用者様のことを考えているかと思います。利用者様に暴言を吐かれたり、他の人より強く当たられることもあるかと思いますが、それは信頼関係が築けている証拠です。是非ひとりで抱え込まないようにしてください。皆さんはすごく頑張っています。今の介護を支えてくれてありがとうございます。

4. アンケート集計結果

1 ご意見・ご感想（複数回答あり）

(1) 大変参考となり、今後の自分の仕事に活かしていきたい。	11
(2) 内容的に難しく、すぐには仕事に活かすことはできないが、内容の重要性あるいは必要性は十分に感じ取れた。	2
(3) 自分が思っていた研修内容と違っていた。	1
(4) その他※	4

※・認知症の方の対応について初心に戻り、皆さんの体験をもとに頑張りたいです

- ・とても良かったです
- ・事例1の意見を全員分ききたかったです
- ・先生のお話は大変分かりやすく良かったです

2 会場と時間帯（未回答：6人）

(1) 会場・時間帯共に参加しやすかった。	10
(2) 会場あるいは時間帯の関係で参加することが大変だった。	2

3 参加しやすい会場（複数回答あり）

可美公園総合センター	9
浜松市教育会館	2
浜北文化センター	1
三ヶ日協働センター	1
区役所会議室（東区1人、南区3人）	4
その他※	0

参加しやすい曜日（未回答：6人）

平日（週後半が良い1人、月曜以外2人）	11
土曜	1
日曜	0
その他	0

参加しやすい時間帯（複数回答あり）

13～15時	9
15～17時	4
18～20時	1
19～21時	0
その他	0

4 取り上げてほしい研修（内容）

- ・寝たきりの高齢者の対応
- ・初心に戻って認知症の人を学ぶ
- ・排泄介助・感染症対策
- ・認知症は深いので何度でも開催してほしい
- ・男性の利用者でも参加しやすい体操やレクを教えて欲しい

福祉用具系サービス部会

平成30年10月14日浜名湖ガーデンパークで開催された労福協まつりに福祉用具系部会として出店しました。総出店数70、来場者数約13,665人と、お年寄りの方から小さなお子さんまで幅広い年齢層の方が訪れて非常に賑わっていた様子でした。

福祉用具系部会は、アザラシの介護ロボットや手に麻痺がある人がリハビリで使う機械や電動車いすなど計6つの福祉用具の展示をしました。通りすぎる人のほとんどの人が介護ロボットや機械を見て立ち止まって、実際に試乗や体験をしていってくれました。



アザラシの介護ロボットは、すべての年齢層の方に人気があり「愛らしい」「癒される」「欲しい」など大変好評でした。麻痺がある人が使うリハビリの機械は、子どもや若い男性の方に人気で、勝手に動く機械をみて興味津々でした。電動車いすは、子どもや2世帯で暮らしている方などに人気で多くの方に試乗していただくことができました。幅広い年齢層の方々に興味をもっていただく非常に良い機会になりました。



施設系サービス部会

平成30年10月18日施設系サービス部会研修会が浜松市浜北文化センター大会議室にて開催されました。今回の研修会は、「明日から職場で実践できる新しい転倒骨折防止対策」をテーマに「株式会社安全な介護」代表取締役の山田茂氏にご講演いただきました。



1. 転倒骨折事故防止対策の現状

転倒事故が発生したら、原因は見守りを怠ったこと。そして再発防止は見守りの強化をすること。このように転倒事故を「防ぐべき転倒事故」と「防げない転倒事故」を同じように扱うということの繰り返しが現状であるようです。一見問題なさそうですがそこには問題がありました。

前者の場合、防止対策の優先順位が高いため、最大限の努力で防ぐ必要があります。しかし後者の場合、事故を無理して防ぐのではなく、「防げない事故」であることを家族に理解を求めることが重要だったのです。全ての転倒事故を職員のミスと決めつけるのではなく、他に原因がないか考える必要があります。

2. 転倒事故の原因分析

【介護者側の原因・利用者側の原因・環境の原因】の3つの視点で分析すると多角的な原因分析ができるようです。分析していくと、事故原因は1つではなく複数の原因が絡み合っていることが多いということが分かりました。



3. 転倒事故の防止対策

転倒事故の原因が明確になったところで、対策に入ります。それにあたって、優先度に注目する必要があります。転倒事故を「防げる転倒事故」なのか「防ぎにくい転倒事故」それとも「防げない転倒事故」なのかをそれぞれ分けて優先度を決めます。

- ・ 直接介助中の転倒 → 防げる転倒 → 防止可能性 99 → 優先度◎
- ・ 間接介助中の事故 → 防ぎにくい転倒 → 防止可能性 50 → 優先度○
- ・ 介助中以外の事故 → 防げない転倒 → 防止可能性 0 → 優先度△

また、利用者様それぞれの転倒リスクを把握し共有するために「転倒リスクアセスメントシート」活用すると良いそうです。特にショートステイの初回利用の事故発生率は、利用者が流動的という点、在宅利用者・短期利用者である点からリスクアセスメントが難しく、入所の約5倍になることがわかりました。

そして、転倒事故の防止対策の種類をおさえておくことがポイントです。転倒事故の根本原因を究明して対策する未然防止策、転倒事故の根本は放置したまま、その場その場で危険に対処する直前防止策、転倒事故を未然に防ぐのではなく、転倒してもケガをさせない対策する損害軽減策の3つをバランスよく使い分けるのが効果的だそうです。

4. 転倒原因を改善する対策

未然防止対策の中にあたる転倒原因の改善についてどのようにしたら良いのでしょうか？やはり、全ての転倒事故について介護職員だけが改善すれば良いわけではなかったみたいです。起きた転倒事故に合わせて、原因が利用者側なのか、介護職員側なのか、環境なのかを明確にして改善をしていかなければならないとわかりました。具体的に、利用者側の原因については、服薬の見直しをする。介護職員側の原因については、解除方法と介助時の声かけをマニュアル化し徹底する。環境の原因については、福祉用具の機能・施設設備の点検をする。等それぞれの原因に合った改善対策をする必要があります。

5. 防げない転倒への対応

防げない転倒については、家族に理解を得る必要があります。ずっとひとりの利用者様に介護職員がついているわけにはいかないですし、ついていたとしても起きてしまう事故はあります。そのため、家族には転倒防止の協力を依頼し、極力事故が起こらない状態をつくるのが大切です。転倒事故の防止は、介護職員だけが対策をとれば良いのではなく、家族の協力もあって最善の対策になることがわかりました。

6. アンケート集計結果

1 ご意見・ご感想（複数回答あり）

(1) 大変参考となり、今後の自分の仕事に活かしていきたい。	87
(2) 内容的に難しく、すぐには仕事に活かすことはできないが、内容の重要性あるいは必要性は十分に感じ取れた。	17
(3) 自分が思っていた研修内容と違っていた。	3
(4) その他※	9

※・現場に直結する内容で、非常に良かったです

- ・施設が古いためいろいろと改善点を見つけることができました。事故が起きる度に職員が責任を感じていたので、これから施設で活かせるようにしていきたいと思います。
- ・とても良い研修会でした。今後、仕事に役立てたいと思います。ありがとうございました。
- ・勉強になるデータ・資料をいただきました。しかし、極端な表現があり誤解を招くことが心配

された。「転倒は防げない」「ヒヤリハットは不要」など

- ・ 防げない転倒事故があることは分かっている、センサーを使用する等、“転倒させない”の工夫が無理をしてでも大切なのかと思っていた。無理せず、骨折させないための工夫が職員、家族、利用者にとって無理のない最大限の対応だと知りました。
- ・ 居室内での転倒についての話が嬉しかったです。
- ・ 環境の原因はお金がかかると思いました。施設によっては、お金がない施設もあるので難しいなと思いました。
- ・ 現場の事故対策について知る機会になった。転倒の多い方を見直して改善に繋げていきたいです。
- ・ 防げる事故、防がないといけない事故についてきけてよかったです。

2 会場と時間帯（未回答：18人）

（1）会場・時間帯共に参加しやすかった。	82
（2）会場あるいは時間帯の関係で参加することが大変だった。	18

3 参加しやすい会場（複数回答あり）

浜北文化センター	80
可美公園総合センター	11
福祉交流センター	10
Uホール	7
区役所会議室（東区1人、北区3人）	4
浜松市教育会館	1
その他（アクト）	1

参加しやすい曜日（複数回答あり）

平日	79
土曜	12
日曜	4
その他（木）	1

参加しやすい時間帯（複数回答あり）

13～15時	18
15～17時	17
18～20時	60
19～21時	13
その他	0

4 取り上げてほしい研修（内容）

- ・クレーム対応について
- ・スタッフのやる気を上げる方法
- ・多様の認知症の介助、対応方法についての研修
- ・介護職への緊急時の対応
- ・災害対策（地震・台風・火事）訓練はしているが、何に気を付け、何を用意しておくとの良いのか（施設）
- ・転倒、骨折以外の事故事例
- ・より良い事業所を築き上げていく手法。価値観の共有の仕方
- ・福祉用具（特に車いす）について、利用者の身体の状態について適している車いすはどのようなものか
- ◎認知症の人への対応
 - ・認知症の人への接し方
- ◎食事介助、移乗介助の最新の方法
 - ・福祉用具について
 - ・介助動作について
- ◎食事介助の方法と嚥下のリハビリ、認知症の人の拒否に対する対応
 - ・食事中の正しい姿勢、食べこぼしの軽減について
 - ・新しい介助技術、新しい介助心配の使用
 - ・虐待について
 - ・感染症を拡大させない為の対策、事例
 - ・履きなれた靴についてのポイント
 - ・地域交流の深め方
 - ・身体の拘束について
 - ・介護現場での職員教育
 - ・介護業界の働き方改革について（多くの介護施設は労働組合がなく、働き手の条件を監査する機関がないため）
 - ・記録の書き方
 - ・リスクマネジメント
 - ・帰宅願望に対する有効な対処の仕方
 - ・冬場の感染対策（得に家族への対応をどうすべきか。家族も高齢の場合は理解しづらい場合がある。）
 - ・不穏な利用者様への対応
 - ・国の指定の指針に、利用者様の対応で拘束といわれる対応が多いがどうしたらよいか

訪問系サービス部会

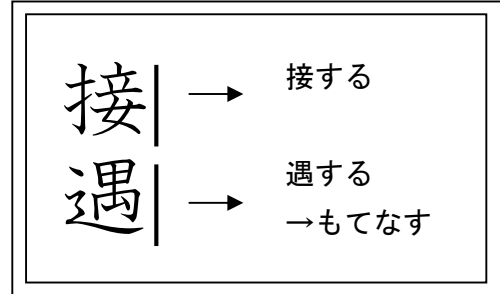
平成 30 年 10 月 23 日訪問系サービス部会研修会があいホール 202・203 研修室にて開催されました。今回の研修会は、「接遇マナー」をテーマにアサヒサンクリーン管理部教育指導課の吉野知克氏にご講演いただきました。

1. なぜ接遇が重要視されるのか

接遇とはなにか。

→適切な態度、適切な言葉遣いのことです。

それができていないと苦情の原因になるため重要視されます。



2. 今回の研修のキーワード

- ①笑顔（笑顔の効果）
- ②コーテシー（礼儀正しさ）
- ③5 S

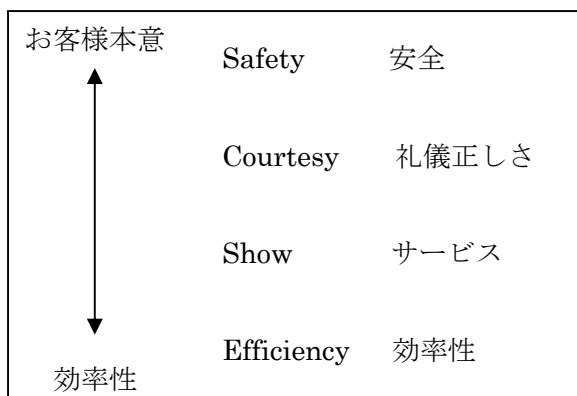
【キーワード①笑顔（笑顔の効果）】

参加者の皆さんで笑顔を意識して自己紹介をしました。

その後、相手のことについてどのような印象を受けたか、笑顔にはどんな効果があるのかを皆で共有しました。その結果、安心、信頼、自分自身・相手を元気にさせるなど、好印象を与える効果があるということを再確認しました。

【キーワード②コーテシー（礼儀正しさ）】

コーテシーの大切さについて、ディズニーランドを例にした説明がありました。ディズニーランドのリピート率は9割を超えるそうです。皆でなぜリピーターが多いのかを考えました。（SCSE）が関係していることがわかりました。



たしかに、ディズニーランドのキャストさんを思い浮かべると、常に笑顔です。どんな人に対してもいつも丁寧で礼儀正しい対応をしているというイメージがあります。

相手へ良い印象を持ってもらうには、SCSEが重要であること、介護現場だけに限らず人に接する全ての職業にもいえることだと思いました。

【キーワード③5 S】

「整理・整頓・清掃・清潔・躰しつけ」これらを5 Sといいます。

もてなすために必要なことが5 Sです。



3. まとめ

接遇とは、普段の生活に多くあることを実感しました。言い換えれば、普段の生活にヒントがたくさん隠れているということです。何気ない行動でも、少し意識してみることが大事だと思います。接遇とは、相手に対しての思いやりだと感じました。

4. アンケート集計結果

1 ご意見・ご感想（複数回答あり）

(1) 大変参考となり、今後の自分の仕事に活かしていきたい。	17
(2) 内容的に難しく、すぐには仕事に活かすことはできないが、内容の重要性あるいは必要性は十分に感じ取れた。	0
(3) 自分が思っていた研修内容と違っていた。	2
(4) その他※	4

- ※・分かりやすい研修であり、非常の勉強になった。指導ありがとうございました。
- ・今回の研修で知った言葉があり、その他にも勉強になった。
 - ・4S、5Sは知らなかった、自分だけでなく一緒に働く職員の方と共有したいと思う。
 - ・非常にわかりやすかった、気を配るポイントを考えられることができた。見直す機会となって良かった。

2 会場と時間帯（未回答：0人）

(1) 会場・時間帯共に参加しやすかった。	20
(2) 会場あるいは時間帯の関係で参加することが大変だった。	0

3 参加しやすい会場（複数回答あり）

浜北文化センター	7
あいホール	3
可美公園総合センター	1
区役所会議室（中区1人、東区1人、南区1人）	3

参加しやすい曜日（未回答：0人）

平日	17
土曜	1
日曜	0
その他（火）、（施設状況）	2

参加しやすい時間帯（未回答：1人）

13～15時	16
15～17時	0
18～20時	0

19～21 時	0
その他（14～16 時）、（施設状況）、（特になし）	3

4 取り上げてほしい研修（内容）

- ・介護技術や医療技術を取り上げた研修
- ・若年性されている病の現状等についての研修
- ・離職防止について
- ・クレームの多い利用者さんについての対応
- ・訪看だけで交流できる場が欲しい。事業所内のケースや業務円滑に進める工夫など気軽に話せることなどできるという

通所系サービス部会

平成 30 年 11 月 9 日通所系サービス部会研修会が浜北文化センターにて開催されました。今回の研修会は、「明日からの業務に生かせるヒントがいっぱい！」をテーマにして4つのコースを設けました。当日は人数の都合によりC（看護師）コースとD（機能訓練士等）コースを合わせて、3つのコースで行われました。Aコースは6つ、Bコースは5つ、C・Dコースは4つのグループに分かれて、コースそれぞれに用意されたテーマの中から2つを選択し、前半と後半30分間ずつ話し合いました。

用意されたテーマ

A（管理者・相談員）コース

- | | |
|----------------------|------------------|
| I 人材育成・教育について | II 稼働率アップの工夫について |
| III サービスの質の向上について | IV 防災計画について（災害） |
| V その他（他事業所に聞いてみたいこと） | |

B（ケアワーカー）コース

- | | |
|----------------------|--------------------|
| I 認知症ケアについて | II レクリエーション・活動について |
| III 介護記録について | IV 人材育成・教育について |
| V その他（他事業所に聞いてみたいこと） | |

C（看護師）コース

- | | |
|----------------------|------------------------|
| I 薬の管理体制について | II 家族、相談員、介護職等との連携について |
| III 食事形態の選択について | IV 感染症予防・衛生管理について |
| V その他（他事業所に聞いてみたいこと） | |

D（機能訓練士等）コース

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| I 個別機能訓練のメニューについて | II 個別機能訓練加算について |
| III 多職種連携について | IV 記録について |
| V 加算について | VI その他（他事業所に聞いてみたいこと） |

コース種別	用意されたテーマ内容	グループ数(各2つ選択)
A(管理者・相談員)コース	I:人材育成・教育について	2
	II:稼働率アップの工夫について	3
	III:サービスの質の向上について	3
	IV:防災計画について(災害)	3
	V:その他	1
B(ケアワーカー)コース	I:認知症ケアについて	1
	II:レクリエーション・活動について	5
	III:介護記録について	2
	IV:人材育成・教育について	0
	V:その他	2
C(看護師)コース	I:薬の管理体制について	0
	II:家族、相談員、介護職等の連携について	0
	III:食事形態の選択について	0
	IV:感染症予防・衛生管理について	0
	V:その他	0
D(機能訓練士等)コース	I:個別機能訓練のメニューについて	3
	II:個別機能訓練加算について	1
	III:他職種連携について	3
	IV:記録について	0
	V:加算について	0
	VI:その他	1



◆アンケート集計結果

1 ご意見・ご感想 (複数回答あり)

(1) 大変参考となり、今後の自分の仕事に活かしていきたい。	70
(2) 内容的に難しく、すぐには仕事に活かすことはできないが、内容の重要性あるいは必要性は十分に感じ取れた。	10
(3) 自分が思っていた研修内容と違っていた。	1
(4) その他※	5
(5) 未回答	2

※・いろいろなサービス業態・視点があり勉強になった

- ・他の事業所の話を聞いて良かった
- ・施設の規模により悩みが違うので、グループ分けも選べたらいいと思う

- ・他事業者との意見交換はっても貴重で1つのテーマについて話し合う時間が足りないくらいだった
- ・今回できなかったテーマでも参加したいと思った

2 会場と時間帯

(1) 会場・時間帯共に参加しやすかった。	60
(2) 会場あるいは時間帯の関係で参加することが大変だった。	17
(3) 未回答	5

3 参加しやすい会場（複数回答あり）

浜北文化センター	50
浜松市教育文化会館	12
可美公園総合センター	10
区役所会議室（中区3人、東区7人）	10
北部協働センター	6
福祉交流センター	1
未回答	9

参加しやすい曜日（複数回答あり）

平日	57
土曜	12
日曜	1
その他（金）、（いつでも可）	2
未回答	11

参加しやすい時間帯（複数回答あり）

13～15時	11
15～17時	6
18～20時	21
19～21時	49
未回答	12

4 取り上げてほしい研修（内容）

- ・グループワークではなく、実践的な研修（移動・移乗・接遇）
- ・ケアの難しい利用者さんの対応について
- ・認知症の方の対応
- ・レク・集団体操のやり方
- ・新人教育について
- ・人材育成や稼働率アップについて

- ・法改正に伴う、通所介護事業所の役割は何か？どんなサービスを現在行い、今後どんなサービスに変えていくか。
- ・ケアマネとの連携のしかた（記録・医療情報の共有）
- ・マナーに関する研修
- ・事故事例、クレームや失敗談
- ・防災計画について（災害・停電の時のことなど）
- ・服薬管理や食事について
- ・利用者さんに日中飽きることなく過ごしていただく為にはどうしたら良いか
- ・入浴の行い方
- ・一日のタイムスケジュール
- ・送迎時の留意、工夫

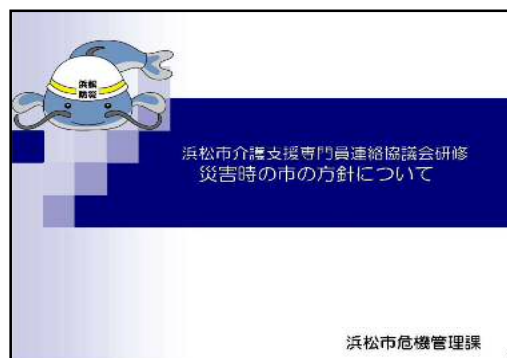
居宅系サービス部会

平成 30 年 12 月 1 日居宅系サービス部会研修会が可美公園総合センターホールにて開催されました。今回の研修会は、「浜松市で災害発生！！～その時何が起こるか、ケアマネは何をすべきか～」をテーマに 3 つの講演を聞くことができました。

1. 「災害時の市の方針について」（浜松市危機管理課）

(1) 南海トラフ地震の想定被害①

- ・震度 6 強から 7 の領域が市域の約 6 割
- ・建物被害は、約 8 割が
- ・地震動、全建物の約 5 割が全壊・焼失
- ・地震動による死者数は 約 6,530 人
- ・沿岸部や河川沿いで液状化危険度大



(2) 南海トラフ地震の想定被害②

- ・津波は約 20 分で標高 6~10m の砂丘を越え、内陸に流入する
- ・浸水深 2m 以上は概ね国道 1 号（海岸より約 1km）より以南であり、到達時間は 25 分程度である
- ・浸水深 1cm 以上の津波は海岸より約 4 km まで到達
- ・浸水面積 41.9k m²
(2m 以上 13.4k m²、2m 未満 28.5k m²)
- ・津波による死者約 16,610 人

	地震発生直後	応急復旧期間
道路	車両通行不能	3 日~7 日
鐵道	運行不能	1 週間~1 ヶ月
電気	89%停電	1 週間~2 週間
電話	91%不通	約 2 週間
ガス	100%供給停止	4 週間~6 週間
上水道	ほぼ 100%断水	6 週間
下水道	75%機能支障	5 週間

(3) 浜松市緊急物資備蓄の促進

- ・ 1日後避難所避難者数 約 28 万人
- ・ 非常食 約 71 万食 (83%)、
(避難所避難者×3食、一部9食) 目標約 86 万食)
- ・ 飲料水約 41 万本 (500ml) 小中学校受水槽等
- ・ 仮設組立トイレ 2,502 基、便袋 約 17 万枚



(4) 市民はなにをしたらよいか

①命を守る対策

- ・ 家の耐震化
- ・ 家具の固定
- ・ 最低7日分の飲料水・食料の備蓄

(1日1人3ℓ、3ℓ×7日=21ℓ、2ℓで約10本)

②状態の把握

地震が発生したらすぐに避難所へ行くのではなく、今いる場所のリスクや家で生活（在宅避難）のメリットを踏まえた上で判断し行動することが重要である。

③情報収集

- ・ 防災行政無線
- ・ 地域防災無線
- ・ 携帯電話、スマートフォン、車のナビのワンセグ等

(5) 浜松市防災センター

多くの市民に防災の学習や体験をする場とともに、次世代の担い手となる小中学生への防災教育の場を提供する目的として、平成30年12月1日に浜松市防災センターがオープンしました。展示の内容は、居住地の災害特性や家庭での防災対策、浜松市の災害史等の知識を習得する「知るゾーン」と映像や体験等により防災行動を身に付ける「感じるゾーン」と地域、NPO、企業等との連携を支援する「つながるゾーン」の3つに分かれています。是非一度、足を運んでみてください。

(6) その他

浜松市防災ホットメール：緊急情報、地震情報、気象情報などを登録された方の携帯電話に電子メールで配信するサービス

浜松市防災アプリ：いざという時の避難場所確認に加え、区版避難行動計画による防災学習に使うことができるアプリ

※詳細は浜松市HPをご覧ください。

2. 「地域における現状」

講師：聖隷三方原病院 高度救命救急センター 看護師 有賀 崇博 氏

今回、有賀氏には①災害医療、②DMAT、③病院の災害対応の3つのテーマについてご講演していただきました。

(1) 災害医療

①災害拠点病院とは？

災害などの緊急事態の24時間対応し、災害発生時に被災地内の重症の傷病者を受け入れ、また、搬送し、医師団を派遣するなど、地域の医療活動の中心となる機能を備えた病院のこと。

浜松市の災害拠点病院

- ・ 浜松医科大学医学部附属病院
- ・ 浜松医療センター
- ・ 浜松赤十字病院
- ・ 聖隷三方原病院

②レベル2の南海トラフ巨大地震の災害予測

	死者（人）	重傷者（人）	軽傷者（人）
浜松市	17,750	5,330	12,500
1つの災害拠点病院 平均患者	4,437.5	1,332.5	3,125.0

(2) DMAT

DMAT (Japan Disaster Medical Assistance Team) :

災害急性期に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医療チーム

<DMATの機能・任務>

- ・ 被災地内での医療情報収集と伝達
- ・ 被災地内でのトリアージ、応急処置、搬送
- ・ 被災地内での医療機関、特に災害拠点病院の支援・強化
- ・ 広域搬送拠点での医療活動
- ・ 航空搬送の搭乗医療チーム

<DMATの自動待機基準>

- ・ 大規模な航空機墜落事故が国内で発生
- ・ 大津波警報
- ・ 東京都（23区内）で震度5以上
- ・ 東海地震注意情報
- ・ その他の地域で震度6弱以上

(3) 病院の災害対応

東日本大震災が起こった時の病院内の実際映像を見せていただきました。地震発生後、医療スタッフが、これから来る患者の受け入れの準備をするとともに、もともと院内にいた人達の対応に当たっている赤十字病院の「初動の記録」です。この映像で特に印象的だったことは、すぐに患者は来ないということです。当たり前かもしれませんが、地震が発生してから患者を搬入するまでには時間がかかります。そのため、地震発生直後から患者が来るまでの数時間を、いかに焦らずマニュアルなどに従い、受け入れの態勢を整えるかが、重要であると分かりました。



＜急性期における災害医療の目標＞

- ・被災地内の病院で、治療を完遂させることが目標ではない。
- ・緊急度、重症度を評価し、患者の全身状態を安定化させることが第一。
- ・被災地外に搬出すべき患者を Pick up し、優先度（治療や搬送）の順位付け。
- ・搬送先・搬送手段の決定。

＜これからの課題＞

- ・発災が夜間、休日であった場合のマニュアル
- ・周辺医療施設、開業医との連携体制の構築
- ・手洗い・排泄処理など公衆衛生の準備
- ・帰宅困難者対応
- ・長期に院内で働くであろう医療スタッフの休憩場所の確保・家族対応

3. 「甚大災害とケアマネの立ち位置について」

講師：静岡県介護支援専門員協会理事 塩田耕之 氏

今回、塩田氏には「甚大災害とケアマネの立ち位置について」をテーマに、2つのグループワークを行いながらご講演いただきました。

(1) 災害時アセスメントシートの推奨

日本介護支援専門員連絡協議会で示している様式で、災害時応援で駆けつけたケアマネでも、安否確認などの支援が容易にできるようなシートです。是非利用してください。

(2) 東日本大震災・熊本地震で起きた実例

<東日本大震災後の東北沿岸部にある老健の話>

- ・施設の特徴：2階建て、居宅介護支援、デイケア併設で、2階が入居者スペース（80名くらい）、同敷地内に薬局あり

- ・津波被害：津波の被害はなかったが、200メートル手前まで水が押し寄せた

発災後のフロアは、食堂などの広間に入居者を集めて、ベッドは縦に2列に長く並べました。食事は、ラップを敷いたお皿に、ワンプレートのご飯を長期提供しました。そして、ライフラインの寸断で、ローリータンク（農業用のポリタンク）で近くの小川まで何度も水を汲みにいきました。施設には、150人3日分（入居者と職員分）の備蓄があり、2日目に自衛隊、3日目に地区の婦人会の炊き出しがありました。それでも不足が生じ、食料を山の方の調達に行かなくてはならなくなりました。

<熊本地震で起きた話>

- ・近隣住民が、指定避難所でない近くの施設に「避難」
- ・職員家族までも、家族の勤務する施設に「避難」
- ・数日経過したら、施設の広範囲で悪臭が立ち込める
- ・浄化槽のポンプや換気ファンが停電でストップ。浄化槽が汚水で溢れ返っていた。

<対策>

両方の実例からいえることは、災害時には入居者と職員だけの避難場所ではなくなるということです。多くの人々が避難してくることも想定する必要があります。

- ・給油のタイミングの見直し
- ・備蓄食料の増量
- ・発電機の導入



(3) まとめ

想像できない災害（未来）を想像して、それに対処することが求められています。

4. アンケート集計結果 （回収枚数：141枚）

(1) 参加者

①年代（未記入1名）

20代	1
30代	13
40代	55
50代	50
60代	21

②基礎資格（社会福祉士・介護福祉士の重複5名）

看護師	25
理学療法士	1
作業療法士	1
社会福祉士	22
介護福祉士	85
栄養士	3
歯科衛生士	1
その他	8

③経験年数

1年目	14
2年目	10
3年目	12
4年目	12
5年目以上	88

(2) 研修を受講した感想（アとウ重複1名、未記入8名）

ア：大変参考になった	72
イ：参考になった	62
ウ：あまり参考にならなかった	0

(3) 研修で今後企画してほしいと思う内容

- ・ケアマネジャーの体調管理について
- ・ケアマネ業務に対して細かいことの正しいやり方を確認できない、実地指導などで、指導されるケースなどを教えてほしい。
- ・アセスメントの仕方、モニタリングの仕方について勉強する機会があればと思います。
- ・地域・社会資源 どんなものがあるのか、どのように活用できるのか
- ・ACP、障害と介護の連携
- ・災害机上訓練とかやってほしいです。
- ・地域での連携等 具体例で教えてほしい。
- ・スーパービジョンで指導方法
- ・課題整理総括表の記入について勉強する
- ・次年度、消費税10%に伴い、介護サービスの単位数も上がるのでは？と思われます。
- ・有名な講師の話を聞いてみたい（高野さん、結城さん、菊池さんなど）
- ・今日の様な実際の話しで検討したい。
- ・看取り
- ・経済状況が悪化している世帯の対応について